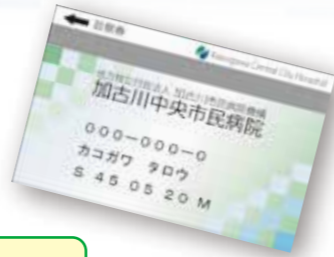


新病院ニュース

●「(仮称)加古川中央市民病院」では、 診察券が新しくなります

加古川西市民病院・東市民病院の診察券の取扱い等について

- 「加古川西市民病院」の診察券 → ○ 新病院でもご利用可能です
- 「加古川東市民病院」の診察券 → × 新病院ではご利用できません



※診察券はイメージです

新病院 診察券への交換について

新病院の診察券は、開院後に「診察券受渡しの専用窓口」(*)にて交換を行います。
交換をご希望の方は診察券をご持参いただき、「診察券受渡しの専用窓口」にお越しください。

※ 開院当初、初診窓口の混雑が予想されるため、「診察券受渡しの専用窓口(診察券お渡し窓口)」を設置します。

(ご注意)

- ・東市民病院の診察券のみお持ちの方は、必ず交換をお願いいたします。
- ・「西市民病院」「東市民病院」、両方の診察券をお持ちの方は両方の診察券をご持参ください。

新病院 診察券の事前受渡しについて

予約患者さんにつきましては5月中旬頃から事前に新病院 診察券を配布予定です。
ご来院時に各診療科にてお受け取りいただきますようお願いいたします。



● お支払いはクレジットカードも使える 「医療費自動精算機」で

「(仮称)加古川中央市民病院」では、自動支払が可能な医療費自動精算機を導入いたします。
混雑緩和の為に自動精算機でのお支払いをお願いいたします。
現金・クレジットカード・デビットカードがご利用いただけます。

※ なお、従来どおり窓口でのお支払いも可能です。

次号のご案内

今年度の加古川市民病院機構 広報誌「つつじ」は、新病院「(仮称)加古川中央市民病院」に向けて、
4月～7月の4ヶ月連続で地域住民の皆様へ新病院の情報を詳しくお届けしてまいります。

「つつじ」5月号の内容(予定)

- 特集「5大センター」：心臓血管センター
リレーメッセージ
・整形外科・泌尿器科・歯科口腔外科・救急科・皮膚科・リウマチ科・形成外科
ほか



地方独立行政法人
加古川市民病院機構

<http://www.kakohp.jp/>

加古川西市民病院

〒675-8611 兵庫県加古川市米田町平津384-1
TEL:079-432-3531(代)

加古川東市民病院

〒675-0115 兵庫県加古川市平岡町一色797-295
TEL:079-437-2515(代)

加古川市民病院機構から地域の皆さまへ



7月1日 新病院オープン
に向けて

連載特集 5大センター P4~7
(周産母子センター・こどもセンター)

新病院に先駆けて
4月から呼吸器外科、神経内科、腎臓内科を新設しました

呼吸器外科



外来診察
西市民病院
火・木曜日(午前)

呼吸器外科専門医が1名赴任しました。呼吸器外科では、肺をはじめとした縦隔や胸壁など胸部の臓器の病気を扱います。地域の皆様にお役に立てるよう頑張っておりますのでよろしくお願い致します。

神経内科



外来診察
西市民病院
月・金曜日(午前・午後)
東市民病院
水曜日(午前)
金曜日(午後)

新病院開院に先駆けて、3名の神経内科医が加わりました。神経内科は、脳をはじめとして脊髄、末梢神経、筋肉といった脳神経系臓器の病気を診る内科です。東播磨地域の皆様にお役に立てるよう頑張っております。

腎臓内科



外来診察
西市民病院
第2火曜日(午前)
水・金曜日(午後)
東市民病院
月～水・金曜日(午前・午後)
木 曜日(午後)

3名の腎臓内科医が赴任しました。4月からは外来診療を拡充し入院診療も開始します。7月に新病院に移転しますと、透析室がオープンします。透析患者さんの合併症入院に関しても幅広く対応いたします。

加古川市民病院機構

呼吸器診療の充実

～呼吸器内科・呼吸器外科のコラボレーション、
呼吸器疾患の最適な診療を目指します～

循環器、消化器と並んで患者さんが多く、病気の種類が多い呼吸器疾患。
当機構では、7月の新病院開院に先駆けて4月から西市民病院で「呼吸器外科」を開設しました。
これからは「呼吸器内科」・「呼吸器外科」の2つの専門診療科の医師が協同して患者さんに最適な診療を行う体制になりました。

呼吸器内科

ほぼ全ての呼吸器の病気に対応

Respiratory Medicine

4月より加古川西市民病院の呼吸器診療はバージョンアップしました。呼吸器内科医は増員となり、呼吸器外科が新設されます。内視鏡システムを更新し、さらに新病院では新しいリニアック装置(※)を導入して、最新機器での検査・治療を行っていきます。ほぼ全ての呼吸器の病気が、対応可能となります。気になる症状がありましたら、かかりつけ医にご相談の上、ぜひ当院へ受診してください。

呼吸器内科 主任科部長 西馬 照明



患者さんの負担が少なく、安心いただける治療を

Thoracic Surgery

呼吸器外科

4月より加古川西市民病院に呼吸器外科が新設されました。呼吸器内科や放射線科を中心としたチームで協力し治療を行います。呼吸器外科の手術で多いのは肺がん・気胸・膿胸などです。いずれも積極的に治療しています。基礎疾患の治療もしっかりとした上で、なるべく患者さんの負担が少なく手術後の合併症を減らせるように胸腔鏡手術も積極的に導入しています。呼吸器の病気についてお困りのことがあればかかりつけ医にご相談の上、当院を受診してください。

呼吸器外科 主任科部長 岩永 幸一郎



New Hospital, New Technology 最新 リニアック導入

新病院では、最新型の放射線治療装置(リニアック)が導入されます。放射線治療とは、放射線を体の外側から直接照射することで、主にがん細胞を死滅させる治療方法です。ただし、レントゲン撮影の約100倍の放射線を使用することから、正確かつ適切な量の放射線のがん細胞にあてることが重要です。最新式のリニアック装置では、大きく4つの特長があります。

1. 放射線のエネルギーを細かく設定することにより、最適量を照射することが可能です。
2. 呼吸の動きに合わせて放射線を照射することができるため、正確で照射体積を抑えた治療が可能です。
3. がん細胞に対し、均等に放射線をあてることができます。
4. 治療時間が短くなり、患者さんへの負担も軽くなります。(従来機器の約40%短縮)

今後、肺がんをはじめとして様々な治療に活用していきます。



New Wave

神経内科

新病院
入院診療もスタート

Neurology

脳神経外科はよくご存じでも、神経内科という名前に馴染みがない方は多いと思います。脳・脊髄・末梢神経・筋肉の神経系臓器の病気の内科的診療を行います。代表的な病気には脳卒中、認知症、パーキンソン病、脳髄膜炎、ギランバレー症候群などがあります。これまで加古川東市民病院で外来診療を行っていましたが、加古川西市民病院及び新病院で外来・入院診療を行っていきます。頭痛、ふらつき、力が入りにくい、しびれといった症状で気になる方は、かかりつけ医にご相談の上、受診いただければと思います。



神経内科 主任科部長 石原 広之

腎臓内科

新病院
透析施設がオープン

Nephrology

腎臓は肝臓とともに沈黙の臓器と言われます。透析治療が必要になるほど悪化するまで自覚症状がないことも少なくありません。健康診断で蛋白尿を指摘されたり、血液検査で腎機能が悪いと言われた場合は困った症状がなくても、かかりつけ医にご相談の上、早めに腎臓内科を受診してください。さらに新病院では、透析施設がオープンし、血液透析や腹膜透析とその合併症に広く対応可能です。透析治療に対する不安や悩みを聞かせていただくスタッフ体制も充実しています。安心して当院を受診してください。



腎臓内科 主任医長 中井 健太郎

診療の幅が広がります

眼科

眼科 主任科部長 原 ルミ子

眼科は従来通り後期研修医を含む常勤医師5名と非常勤医師4名で診療にあたります。加古川市の中心に拠点を移すことで、よりアクセスのよい病院となります。また、新たに腎臓内科や神経内科が開設され、透析中の患者さんの手術受け入れや神経眼科疾患の治療が可能となるなど、診療の幅が広がる事が期待されます。増加の一途をたどる加齢黄斑変性症や糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体注射は外来に新設される手術室でより柔軟に対応し、中央手術室では緊急疾患の受け入れを積極的に行っていきます。あんなことも、こんなことも出来るのではと夢は広がりますが、今まで通りの堅実な診療をおろそかにせず、新たなスタートを切り、走り続けたいと思っております。



特集

5大センター ①

周産母子センター

産婦人科

小児科 新生児部門

脳神経外科

内科

「赤ちゃんにやさしい病院」

～人生のスタートを全力でサポートします～

産科部門では母体胎児集中治療室(MFICU)を新設し、新生児部門、内科、脳外科等と連携して、合併症を持つハイリスク妊娠の管理をより安全に行います。さらに救急部、手術部、麻酔科等と共に産科救急疾患への迅速な対応をいたします。また紹介状の無い一般妊婦の方々を歓迎し、赤ちゃんにやさしい病院(ユニセフ認定)のスタッフがLDR分娩室や院内助産室等を活用して、母乳育児と健やかな親子関係の形成の援助をスムーズに行います。地域の将来を担う子どもたちの人生のよりよいスタートの一助となるため、これからも注力して参ります。

① 合併症を持つハイリスク妊娠の管理

② 産科救急疾患への迅速な対応

③ 母乳育児と健やかな親子関係の形成援助

理事(兼)加古川西市民病院副院長(兼)診療部長(兼)周産母子センター長(兼)産婦人科主任科部長 **房 正規**



小児科 新生児部門

当院は、複数の診療科との連携を通して、あらゆる新生児疾患に対応できる体制を整え、東播磨、北播磨地域における新生児医療の中核施設として、赤ちゃんの命を守ります。またカンガルー号(*)を有しており、地域の医院、病院におけるリスクの高い分娩への立ち会いや病気の新生児の受入れも365日、24時間体制で行っています。



周産母子センター副センター長(兼)小児科 科部長(兼)医療安全担当課長 **森沢 猛**

新生児・小児 脳神経外科

周産母子センター・こどもセンターの拡張充実の為、平成27年10月に赴任しました。小児特有の疾患である二分脊椎(脊髄髄膜瘤、脊髄脂肪腫など)や頭蓋縫合早期癒合症などの先天性疾患、水頭症、頭蓋骨・頭皮管障害(もやもや病)などを対象としています。約15年の子ども専門病院での臨床経験を生かし、他科・他院とも連携をとりつつ、子どもの包括的治療を目指します。

脳神経外科 主任科部長 **山元 一樹**



正常分娩の助産師の支援

妊娠経過が正常な場合、助産師が行っている「助産外来」を受診していただけます。毎回、助産師が妊娠中の生活をアドバイスしたり、分娩に備えて十分に話す時間を設けております。また、経腔分娩の場合、上を向いた体位での分娩か、横向きの体位での分娩かのどちらかを選んでいただけます。できるだけ、産婦さんの希望に添った分娩ができるよう努力しています。

母子同室

母子同室とは、お母さんと赤ちゃんが24時間同じ部屋で過ごすことです。おむつ交換や授乳をすることでお母さんは赤ちゃんのお世話を慣れることができます。また、赤ちゃんの泣いている理由や何をして欲しいのかということがよくわかるようになります。安心して赤ちゃんとお過ごしいただけるよう私達助産師や看護師がサポートしています。



母乳育児ケア

母乳育児とは、母乳で赤ちゃんを育てる事を言います。特別な事ではなく、自然なことなのです。母乳は、赤ちゃんを病気から守り、お母さんの体の回復を助け、お母さんと赤ちゃんの絆を育てます。助産師や看護師がお母さんの心に寄り添いながら支援しますので、上手に授乳ができるようになり安心して退院していただくことができます。



ホスピタル・アート HOSPITAL ART

母と子の慈愛にみちたかわりを育み、小さな命を24時間見守る医療職も癒されるように、産婦人科の病室・デイルーム、NICU・GCUの中廊下には、銅板画家 山本容子さん(*)デザインの壁紙で優しい雰囲気を出しました。産科デイルームとNICU前廊下には、山本容子作の大きな絵も飾られる予定です。

※ 山本容子さん 講談社出版文化賞ブックデザイン賞、京都府文化賞功労賞など多数受賞。2005年から絵の持つ癒しの方で患者さんをはじめ、医師や看護師たちが心穏やかに過ごせるよう、「ホスピタル・アート」にも取り組んでいる。

新生児搬送救急自動車 **カンガルー号**



新生児専用の救急車「カンガルー号」は、新病院でも引き続き運行します。集中治療の必要な赤ちゃんを迎えに行くなど、地域の周産期医療に貢献しています。



特集

5大センター②

こどもセンター

小児科

小児外科

形成外科

脳神経外科

眼科

整形外科

皮膚科

耳鼻いんこう科

など

～総合的なチーム医療、子どもたちの未来の為に～

こどもセンターでは、小児科、小児外科を中心に院内周産母子センターや小児に関わる各診療科・部門と連携して、いのちの始まりから成人に至るまで発達段階に応じた医療を提供しています。東播磨地域の中核小児医療施設として地域の医療機関や教育、福祉、行政機関と十分な連携を図りながら、高度な小児専門医療や二次救急医療にも積極的に取り組んでいます。また、センターには臨床心理士や保育士が在駐し、入院中の子どもたちのこころのケアや日々の生活や学習の支援なども行っています。スタッフ一同、小児とそのご家族の皆さまが最良の環境の中で安心して医療を受けていただけるように努めます。



加古川西市民病院 院長補佐(兼)こどもセンター長(兼)小児科主任科部長 **米谷 昌彦**



小児腎疾患

小児腎臓病領域ではこれまでどおりネフローゼ症候群や急性腎炎などの診療を行い、腎生検(腎臓に針を刺して直接細胞を取る検査)による組織診断も継続します。透析療法が必要となる末期腎不全の患者さんに対しては、なるべく負担のかからない腹膜透析を導入しています。新病院では腎以外の臓器疾患に対する血液浄化療法も開始します。

小児一般疾患

小児科では外傷以外の小児の診療全てに対応しています。詳しいお話を伺い入院が必要なのか外来通院で大丈夫なのか、また様々な専門外来でのフォローアップが必要か、などを判断していきます。入院の多くは気管支炎・肺炎、胃腸炎、気管支喘息などですが、標準治療のスケジュール表(クリニカルパス)を導入し、診療の質が保たれるような体制をとっています。

小児循環器疾患

生まれつき心臓の形に異常のある先天性心疾患、学校検診などで見つかる不整脈、肺高血圧、川崎病冠動脈後遺症、心筋炎や心筋症などについて、胎児期・新生児期から乳幼児、学童に至るまで、すべての時期の小児心疾患を対象に診療を行っています。2015年4月から常勤の小児循環器専門医が着任、新病院移転後より小児の心臓外科手術やカテーテル検査を開始、成人期の患者さんについても内科との連携を行っていく予定です。



小児外科

こどもセンターは播磨医療圏の子どもたち約27万人の健康を支える砦として活動しています。小児外科は県下3ヶ所の学会認定施設の1つです。外来診療は、加古川市民病院時代から15年間一貫して毎日行っています。近隣の医療機関からの紹介を含め、小児外科開設以来、全身麻酔手術は約3500例になりました。うち約4%は生後1ヶ月以内の新生児が占めています。ヘルニアなどは、ご希望によりご家族の負担の少ない日帰り手術で行っています。



顧問(兼)患者支援センター 移行期医療調整室長(兼)小児外科医師 **久野 克也**

形成外科



子どもの形成外科の対象範囲と疾患は、熱傷、外傷、口唇口蓋裂・合指症・多指症・内反症・折れ耳や埋没耳・臍突出症などの先天奇形、皮膚・皮下腫瘍、傷跡・ケロイド、など多岐にわたっています。地域の医療機関や院内の各部門との連携を密にし、未来ある子どもたちに最高の医療が提供できるよう努めてまいります。

形成外科 主任医長 **岩谷 博篤**

小児神経疾患

小児神経分野ではけいれんや生まれつきの脳や筋肉の病気などを専門的に診ています。子どもは体だけでなく脳も「こころ」も大人へと成長・発達していく途中の段階です。子どもたちの辛さや苦しい気持ち、それに伴う症状について原因を探るだけでなく、今後の対応について、医師・臨床心理士がご家族と一緒に支援していきます。

移行期医療

先天性心疾患や、がん、神経疾患などの慢性疾患をもつ小児の患者さんは、一般の小児に比べ多くの医療サービスを必要とします。移行期医療とは、それらの小児の患者さんが小児期医療から成人期医療へ、長期にわたって継続的かつ良質な医療を受けられるシステムのことをいいます。当院でも、今後も院内の成人診療科のみならず、院外の行政機関や養育医療施設、在宅診療施設等と連携しながら、地域の基幹病院として、生涯にわたって小児の患者さんを支えていける医療を提供したいと考えています。

他病院との連携
(こども病院など)

高度先進医療の提供、若手小児科医師の育成や臨床研究の推進を図るため、兵庫県立こども病院や神戸大学医学部附属病院小児科と緊密に連携を図っています。

アートワーク
ARTWORK

「よばれた扉に行けるかな？」

小児科外来の受付には大きなおひさま、プレイコーナーの壁には空や海、野原の風景が描かれます。その風景の中にある、花や木、動物たちが、それぞれ診察室の扉にも描かれていて、子どもたちはその絵を探しながら診察室に入ります。

